

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田壽夫(文、写真)、倉谷邦雄(写真)、山 國 (写真)

日 時：2017(平成 29)年 12 月 7 日(日) 9:30～15:30

気 象：天候=晴時々曇 (12 時の気温：4℃)

活動エリア：45 林班に-03・ろ-03

活動内容：モニタリング調査区並びに隣接地の林床整備、密生樹木・枯損木の除伐
里道の整備と狹隘危険箇所との拡幅

参加者：斧田一陽、小櫃徹夫、倉谷邦雄、武田壽夫、杉本佳英、山 國 (計 6 名)

<ラ・ニーニャちゃん 頑張りすぎ>

この寒波の早い訪れは、遠く赤道付近での低海水温のせいらしい。今日も昼の気温は 4℃。標高 400m とは言え一寸低温過ぎるかも？。ただ、風がないので日差しがあると寒さは感じない。

⇒(感じるヒマがない?)

今年度もあと 3 ヶ月、モニタリング調査区の作業は進めておきたい、片や仕残した里道の台風の後始末もしておかねば、と言うことで、今日は前回と同じ「45 林班に-03」に向う。モニタリング調査区と里道整備の二組編成である。併せて、自然歩道近くの里道が狭く路肩が崩れかかっているため、その補修も行う。

大径の倒木・枯損木の処理はチェーンソーが頼り、里道「工事」には鍬が欠かせない、ロープ、高枝切り鋸、といつも通り荷物は一杯。紅葉シーズンも終盤、山は中高年のハイカーがボツボツ。

<次から次へと「終りのない作業」>

活動場所への里道の下りは落葉が重なり滑り易い。いつも足下を注意しながら進む。

手を入れていない山は、繁り過ぎて地面まで日が差さず、また落枝、倒木、枯木が足元や頭上を遮る場所が多い。モニタリング調査区も然り。厄介なのは大径の倒木処理と日差しを遮る広葉樹の枝がかり。倒木は玉切りの手間もさることながら、その重さで棚積み場所への運搬が一苦勞。腰に「ギクツ」と来ないように慎重に取り組む。広葉樹は樹上で縦横に枝を広げているので、幹を切っても倒れない。一々、枝を切り離して一ヶ所に積み揃える(心掛けは「見えた目良く」)。午後は隣接エリアを(出来るだけ)片付けた。

里道整備は、前回踏み込めていなかった区間でチェーンソーが威力を発揮する。枯損木に取り組む雄姿は写真を見て下さい。それにしても道を塞ぐ倒木は多数でその「跳梁跋扈」ぶりは写真の通りで、鋸、高枝切り鋸も出ズバリ。なお、この里道は下に進むにつれ尾根は広くなる。その分、風通しが良かったのか随所に台風の爪跡(これも写真を添付)。今日の成果は林床整備 200 m²、里道整備 100m。

帰途、里道の危険箇所の補修を行う。場所は自然歩道から分かれた辺り。杭打ち(杭材は除伐した広葉樹を整形して利用)、棚積み(これも現地での処理材を利用)、山腹を削って拡幅と、約 10m の区間を対策。

<山たより>

・本山寺山の活動区域は植林地が広いせいか、紅・黄葉はあまり目立たない。それでも、木の間越しの「一押し晩秋の景」を発見。除伐で多少は見通しの効く場所が増えたのかも知れない。

【作業前「道具を手にして」】



【落枝。倒木のモニタリング調査区】



【大径木処理はチェーンソーで】



【除伐した広葉樹の枝積み】



【調査区隣接地の倒木】



【棚積み後】



【里道側の枯損木をチェーンソーで除伐】



【道を遮る倒木】



【君子危うきに……これは手に負えない】



【低い倒木は鋸で「チャレンジ」】



【高枝切り鋸も活躍】



【台風の激しさを思い知る】



【もう一頑張り】



【里道の補修-杭打ち①】



【里道の補修-杭打ち②】



【里道の補修-山腹を削って拡幅】



【里道補修完了】



【本山寺山の晩秋】

